

トピック — 野菜価格の高騰・下落局面における価格形成の特徴 —

野菜の店頭での小売価格は、卸売市場等からの調達コスト、販売管理費、店側の販売戦略等様々な要素が加味されて形成されるが、小売価格と卸売価格の関係は、特に価格の高騰・下落局面ではその特徴が現れやすくなるとみられる。

今年は、8月中旬以降から9月上旬までを中心とし、価格が高騰した後に大幅に下落したが、その過程では小売価格の下落幅が小さいのではないかとの指摘も一部でみられた。これに関しては、小売業者は、仕入れ後も常に一定の流通在庫があること、広告（チラシ）掲載品の小売価格は実際の仕入れに先立ち、前倒して設定されること等から、卸売価格の小売価格への波及には一定のタイムラグがあると言われている。

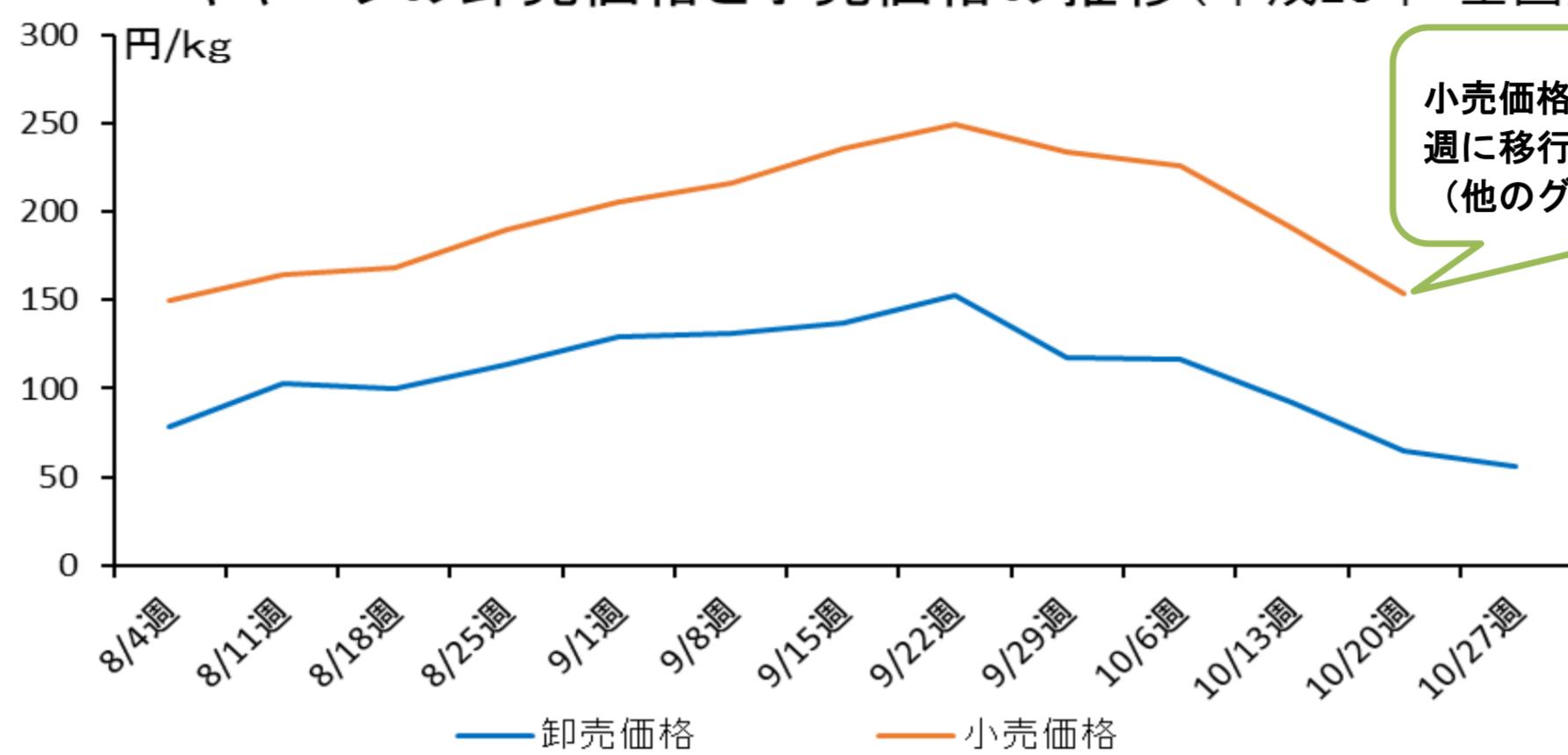
実際に今夏に価格が高騰・下落した4品目（トマト、キャベツ、きゅうり、レタス）について、小売価格のグラフをそれぞれ1週間前倒しさせて、卸売価格のグラフに重ねると、ほぼ連動した動きとなっており、小売価格形成の遅行性がみてとれる。

また、キャベツ、レタスの価格高騰時は、卸売価格に比して小売価格の上昇度合いがやや大きいが、これは1個売りでは売価が高くなることもあり、カット販売が増えたことも影響（小ロット化に伴うkg当たり価格の上昇）しているとみられる。

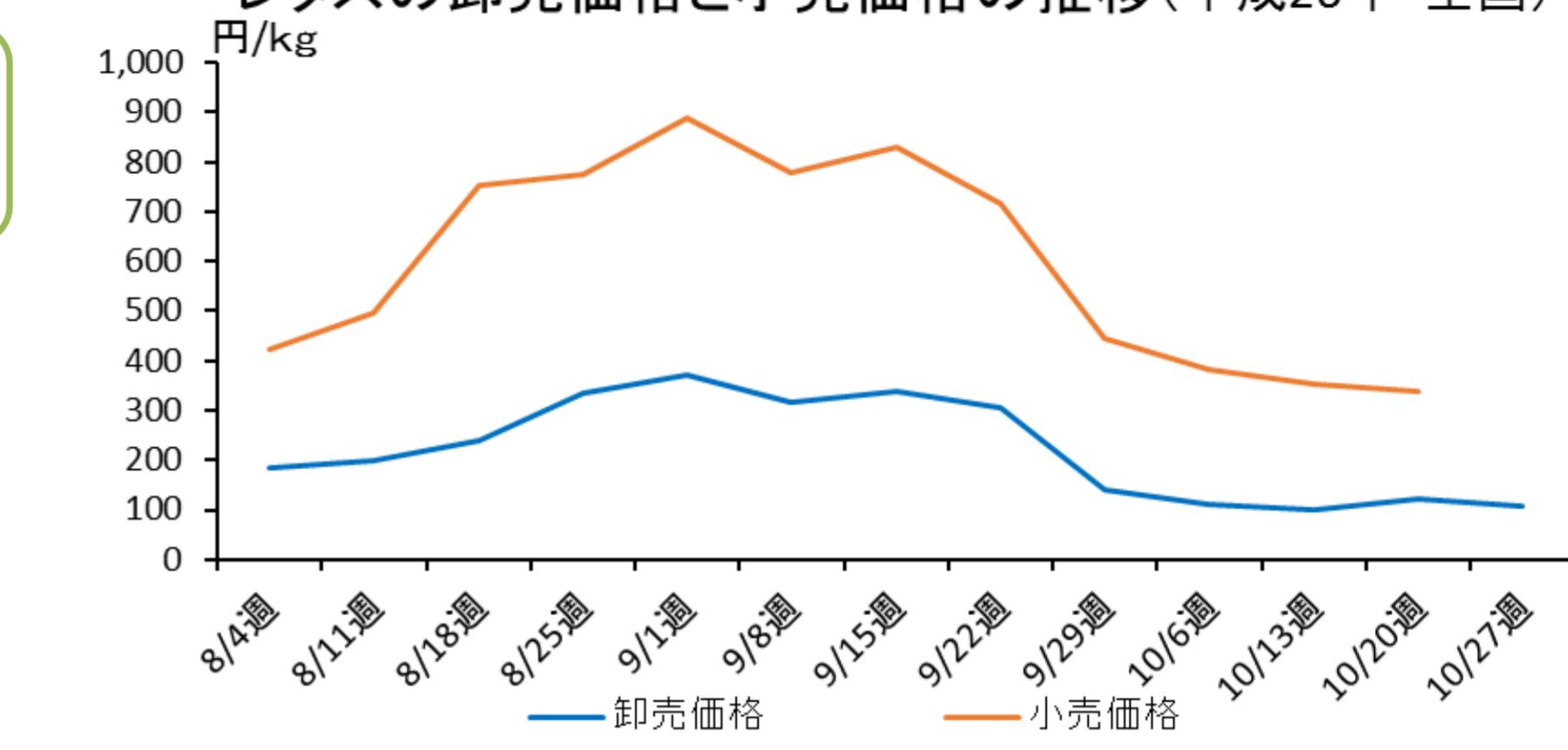
当機構の小売価格調査（毎月第2金曜日に全国9都市で実施：1都市10店舗の調査）でみても、価格が高騰した9月にはカット販売の割合が高くなる傾向がみられた。

このように、卸売価格と小売価格の関係は価格の高騰・下落局面でも一定の連動性がみられるが、著しい価格の高騰と下落は、消費者、生産者、流通・実需者等に様々な影響をもたらすことから、引き続き関係者が協力した需給安定の取組の推進が求められている。

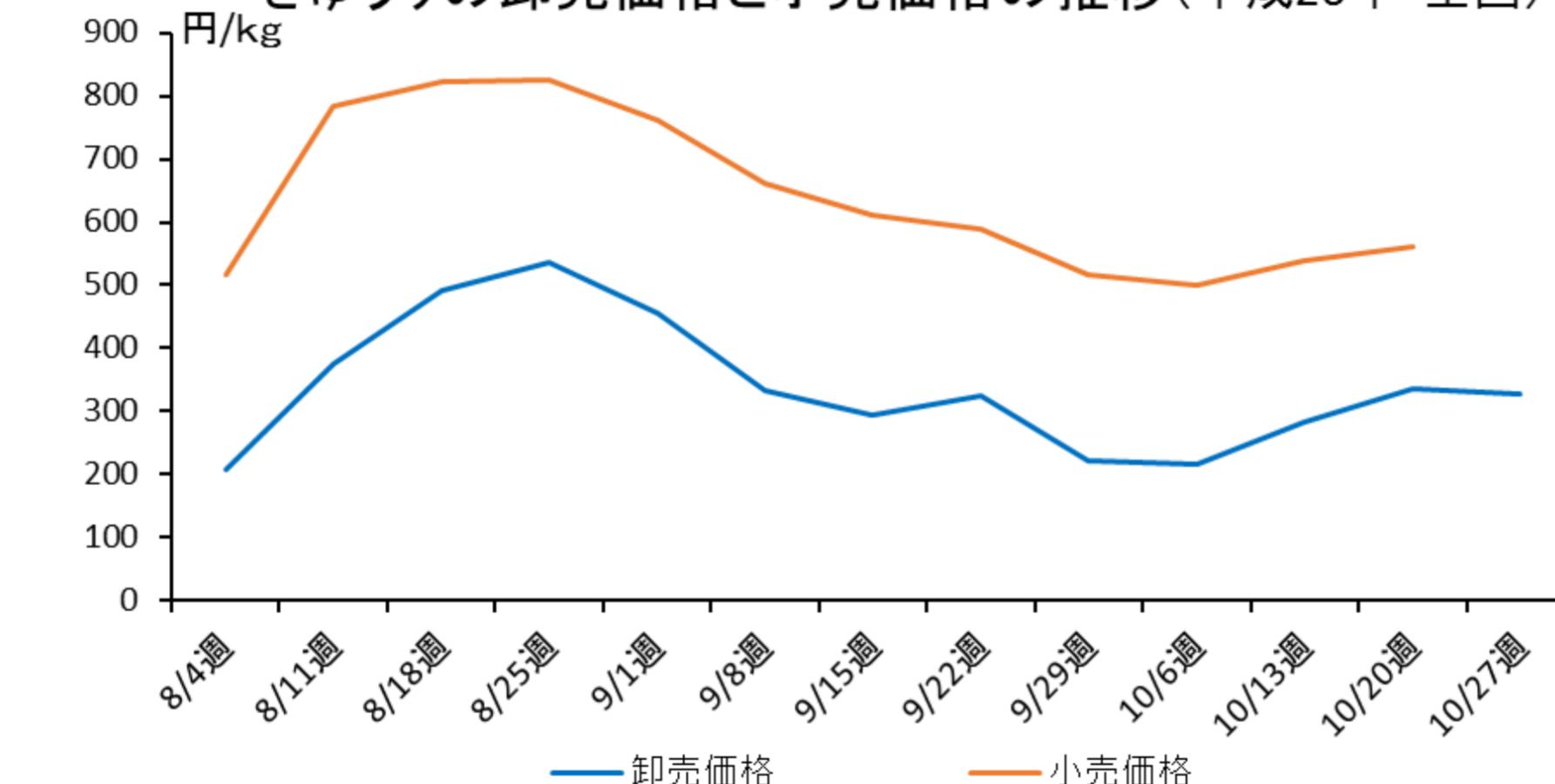
キャベツの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



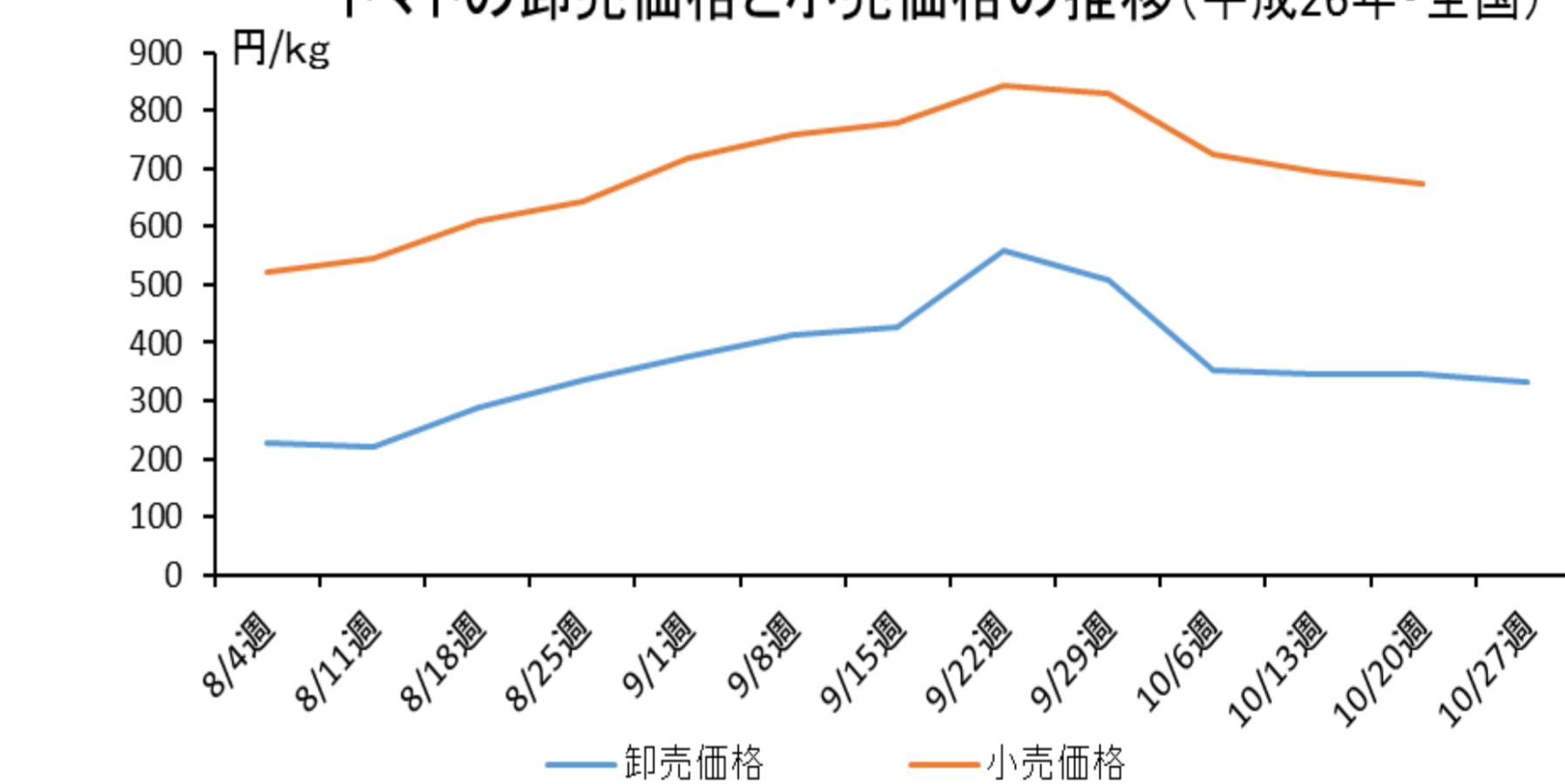
レタスの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



きゅうりの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



トマトの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



資料:農水省「野菜小売価格緊急調査」、「青果物日別取扱高統計結果」

注:小売価格は、各都道府県10店舗の量販店等(全国470店舗)の調査結果であり、グラフは翌週の価格を前週に移行させて掲載している。
卸売価格は、主要14都市19市場の価格である。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。